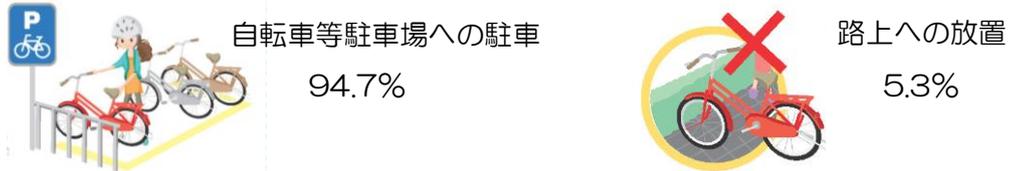


「駅前放置自転車等の現況と対策—平成27年度調査—」について
— 調査結果の概要 —

1 駅周辺における自転車等の放置状況 【図-1】参照

都内の駅周辺（駅から概ね半径500m以内の区域）における自転車の乗入台数（放置台数と自転車等駐車場の駐車台数の合計）は640,316台、原付及び自二を含めた乗入台数は662,302台でした。また、自転車の乗入台数のうち自転車等駐車場への駐車台数（実収容台数）は、**606,486台(94.7%)**で、残りの**33,830台(5.3%)**が路上などに放置されていました。



(1) 自転車、原動機付自転車及び自動二輪車の放置台数

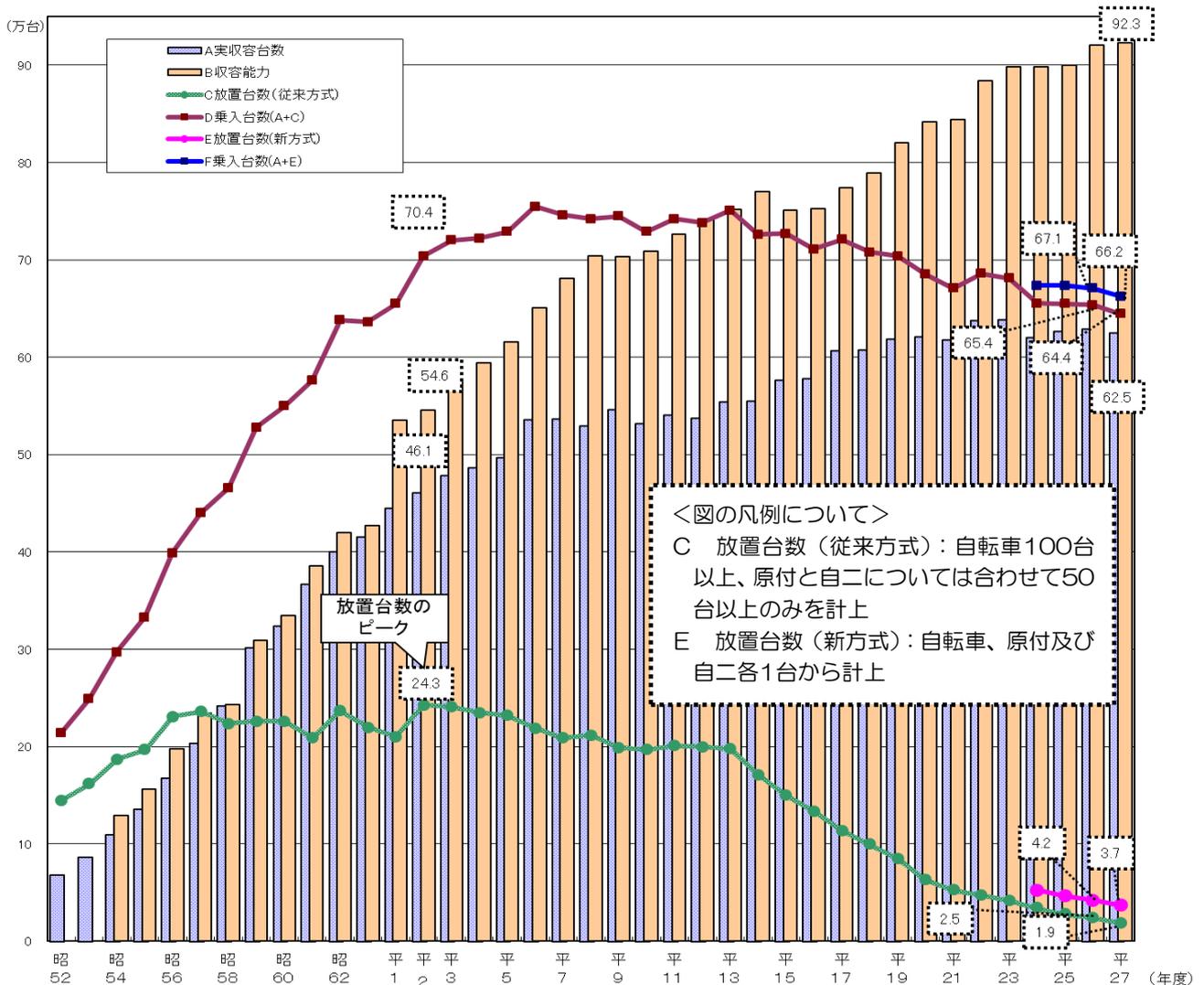
自転車、原付及び自二の放置台数は、**37,004台**（前年度比**5,166台減少**）でした。

うち、自転車の放置台数は、**33,830台**（前年度比**4,727台減少**）でした。

(2) 自転車の放置率（乗入台数に占める放置台数の割合）・・・区部7.4%、市部1.7%、町村部42.3%

自転車の放置率が高い区市は、①千代田区（64.7%）、②中央区（53.6%）、③新宿区（33.7%）の順でした。

【図-1】 放置台数・実収容台数・収容能力・乗入台数推移



※ 昭和52年から隔年で内閣府（旧総理府）が全国調査を実施。全国調査が実施されない年は都が単独で調査を実施。

2 放置台数が多い駅と乗入台数が多い駅

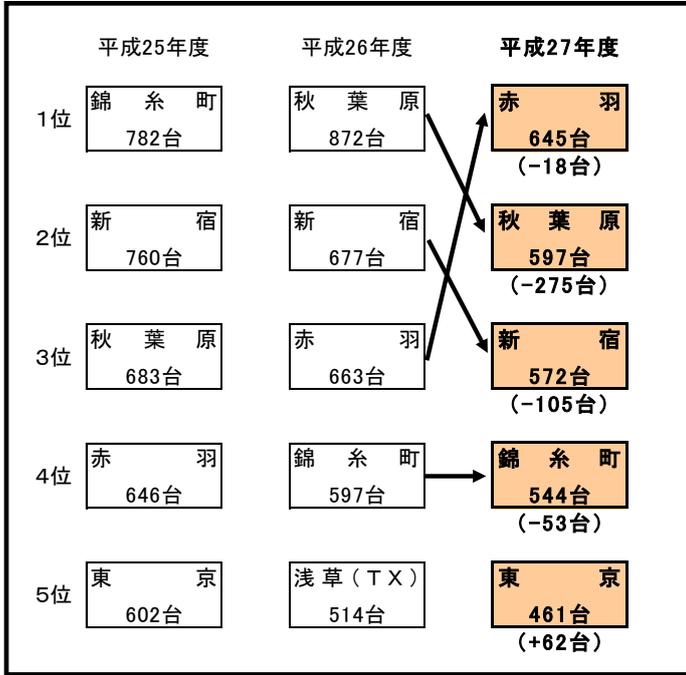
(1) 放置台数が多い駅

図-2 参照

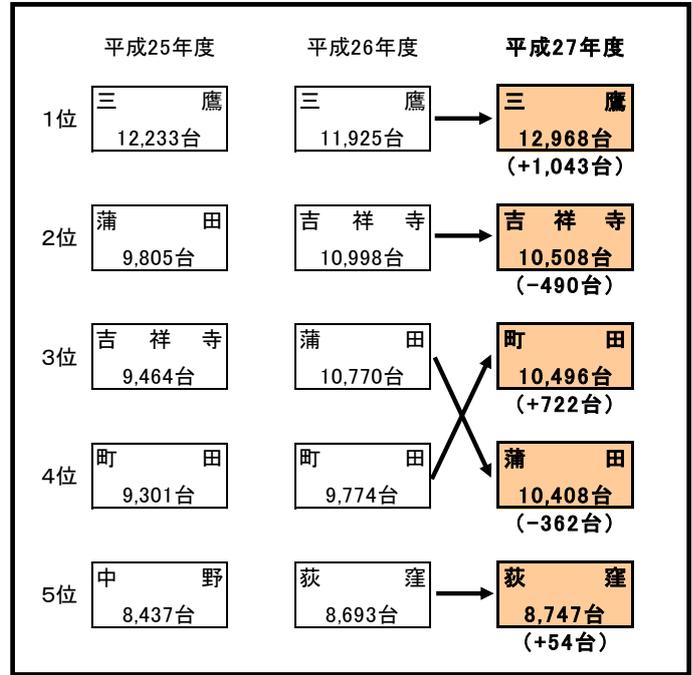
(2) 乗入台数が多い駅

図-3 参照

【図-2】 放置台数が多い駅の推移



【図-3】 乗入台数が多い駅の推移



3 放置自転車等の減少へ向けた主な対策

良好な交通環境を整備するとともに、街の美観を確保するため、都、区市町村、事業者等が連携しながら放置自転車対策に取り組んでまいりました。その結果、放置自転車等の台数は過去最少となりました。

(1) 社会全体で放置自転車を削減する体制の強化

都内の駅前放置自転車の約4割を占める都心6区（千代田区、中央区、港区、新宿区、文京区、台東区）と駅前放置自転車対策に係る協議会を平成26年度に設置し、社会全体で放置自転車を削減するため、平成27度も引き続き、都と6区が連携して事業者へ働きかけるほか、各区のノウハウ・情報を共有化し、自転車駐車場稼働率向上、放置自転車の撤去強化・効率化等を図りました。

(2) 自転車等駐車場の設置等

駅周辺における適地の確保が困難な中、自転車等駐車場の設置及び自転車等駐車場への誘導等が進められました。平成26年度における区市町村の投資的経費（自転車等駐車場の建設、増・改築等に要する経費）は、67.6億円（前年度比 約38億円増加）でした。

(3) 放置自転車等の整理・撤去等

放置自転車等の整理・撤去をはじめ、保管、持ち主への返還、処分等が行われました。

平成26年度における区市町村の消費的経費（放置自転車の撤去等に要する経費）は、133.1億円（前年度比 約7億円増加）でした。

(4) 放置防止に向けた啓発

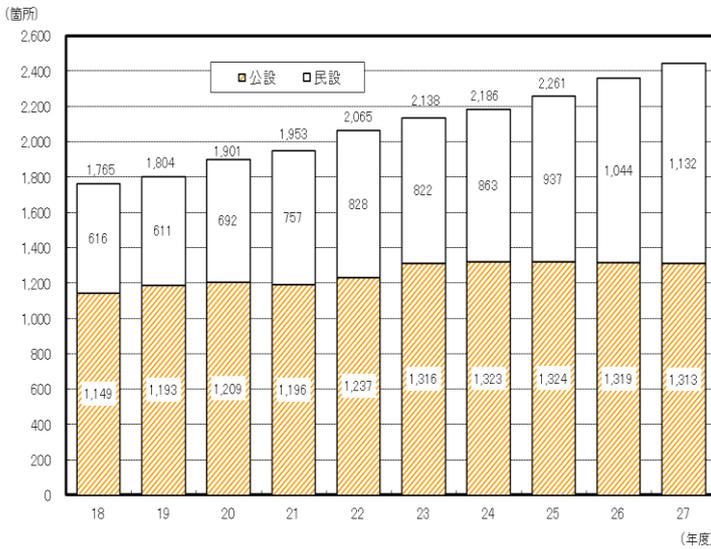
平成27年10月の「駅前放置自転車クリーンキャンペーン」では、都内各駅で自転車の放置防止を呼びかける広報活動、放置自転車等の撤去活動を実施するほか、自転車の放置防止に係る取組を一層推進するため、ウェブ広告やデジタルサイネージなど幅広く広報活動を展開しました。

4 自転車等駐車場の設置状況 【図-4、5】参照

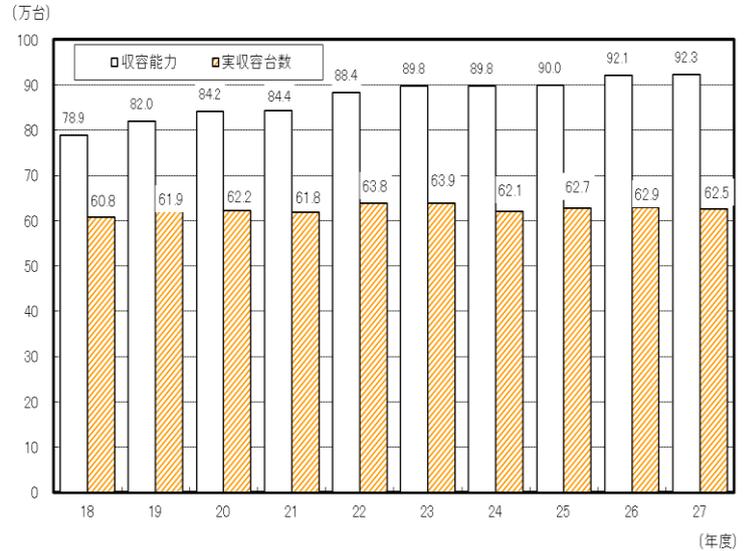
平成 27 年 8 月末日現在、駅周辺の自転車等駐車場は 2,445 箇所（前年度比 82 箇所増加）、収容能力は 922,752 台（前年度比 1,923 台増加）でした。そのうち公設は 1,313 箇所（前年度比 6 箇所減少）、民設は 1,132 箇所（前年度比 88 箇所増加）であり、近年は鉄道事業者をはじめとした民間事業者による自転車等駐車場設置が増加しています。

※ 不特定多数の者が利用可能なもののみ（来客用駐車場等は、特定の者のみ利用可能であるため調査対象外）

【図-4】 設置者別自転車等駐車場の推移



【図-5】 収容能力及び実収容台数の推移



5 平成 26 年度における放置自転車等の撤去、処分等の状況 【図-6、7】参照

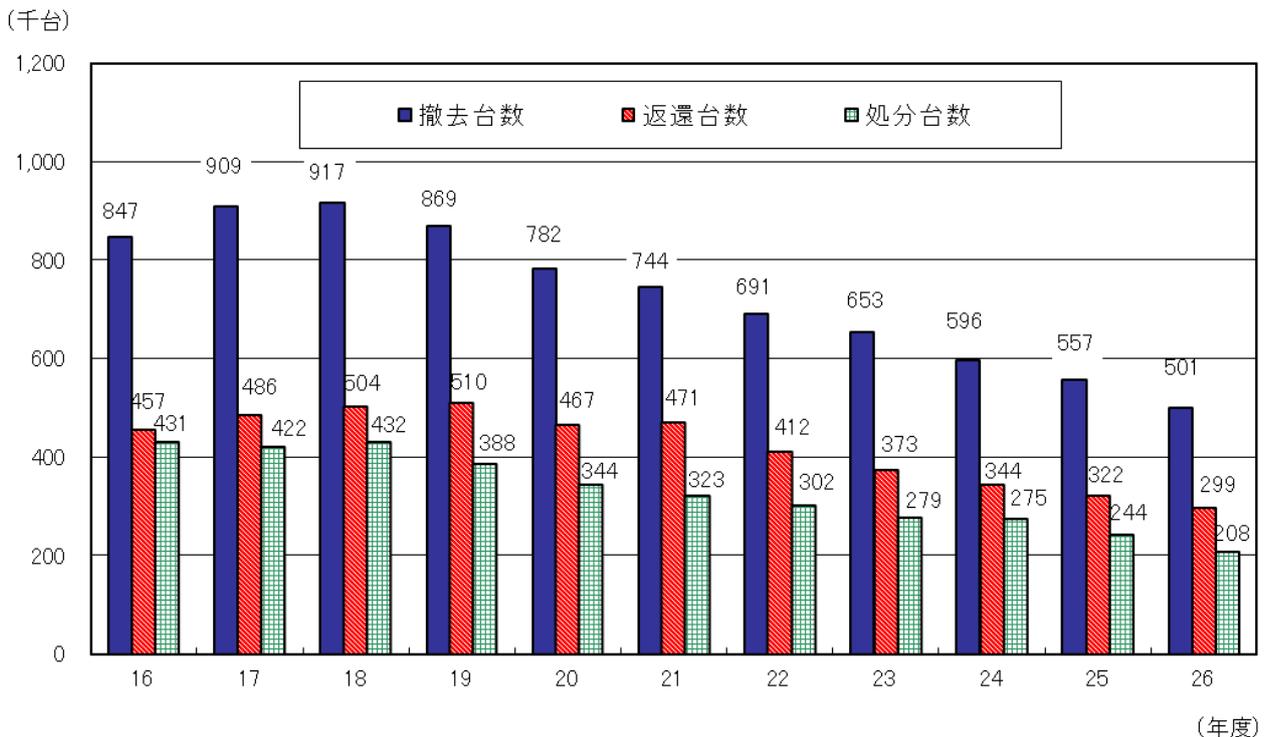
(1) 平成 26 年度に区市町村が撤去した放置自転車等：500,901 台（前年度比 56,262 台減少）

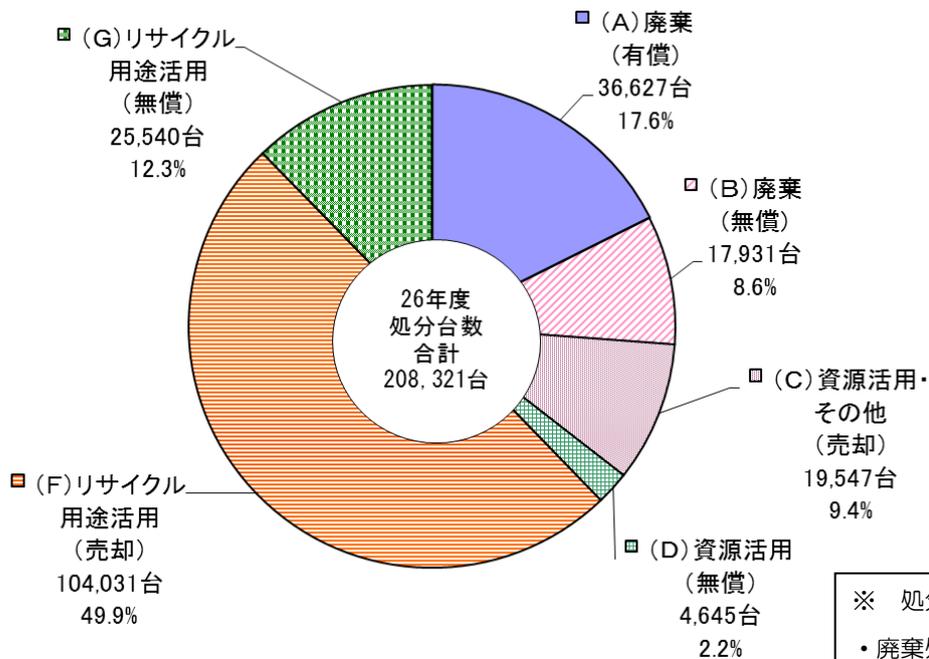
(2) 平成 26 年度に持ち主に返還された台数：298,743 台（前年度比 23,295 台減少）

(3) 平成 26 年度に区市町村が処分した台数：208,321 台（前年度比 35,718 台減少）

※ 返還台数、処分台数には、平成 25 年度中に撤去されたものを含まず。

【図-6】 放置自転車等の撤去・返還・処分台数の推移





※ 処分の内訳は、

- ・廃棄処分 (A+B) : 54,558 台 (26.2%)
- ・鉄くずとして資源活用 (C+D) : 24,192 台 (11.6%)
- ・リサイクル用途 (F+G) : 129,571 台 (62.2%)

6 放置自転車対策事例

区市町村・地域で実施している放置自転車対策のうち、放置自転車を大きく減少させた取組、特色ある取組など2つの事例をとりあげました。

実施主体 タイトル	取組内容
千代田区 街ぐるみで放置自転車対策を推進	<p>秋葉原駅周辺の放置自転車等台数が近年増加傾向にあることを受け、千代田区は鉄道関係者や地域の集客施設等に呼びかけ、秋葉原駅周辺放置自転車対策会議を設置しました。</p> <p>街ぐるみで放置自転車を減らそうという機運が高まり、集客施設の誘導員等が「放置禁止」や「付近駐輪場利用」を呼びかける等の取組を推進した結果、大幅に放置自転車等を減少させました。</p>
八王子市 創意工夫と地域連携で推進、八王子市の放置自転車対策	<p>八王子市は、若い世代に放置自転車防止を訴えかけるため、独自のマスコットキャラクターを考案し、広報活動に活用しました。また、八王子駅周辺の店舗と協定を結び、可動式駐輪器具を設置・管理してもらうことで、商店街の駐輪スペースを創出しました。</p>



啓発ポスター



可動式駐輪器具



マスコットキャラクター「放置ダメ象」